## 連載○土砂災害の解消を目指して

# 平成25年9月15日~16日発生 台風18号による災害について

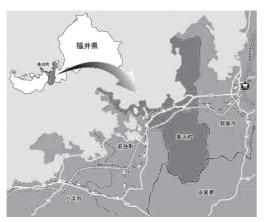
### ■ 山 口 治太郎\*■

#### 1. はじめに

美浜町は、福井県の南西部、嶺南地方の東に位置し、東は敦賀市、西は若狭町、南は滋賀県高島市に接しています。東西約19km、南北約27km、総面積152.32kmであり、町の中央を流れる耳川は、風光明媚な若狭湾に注いでいます。

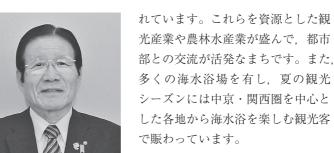
人口は本年4月1日時点で10,051人,世帯数は3,700であり、全国的に人口減少傾向にある中,本町においても人口減少が進んでおります。

国定公園に指定される若狭湾は,リアス式海岸 特有の変化に富んだ海岸線を有し,水晶浜や三方 五湖をはじめ優れた景観を有する自然環境に恵ま



位置図

\*Jitaro Yamaguchi 福井県美浜町長



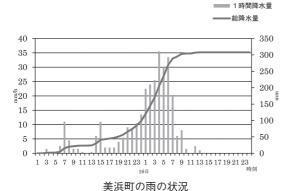
本町と隣接都市とを結ぶ主要な交

通手段として、若狭湾に平行して国道27号と JR 小浜線が走っています。平成21年3月には国道27号美浜東バイパスが開通したほか、平成26年7月には舞鶴若狭自動車道が開通し、関西圏域や北陸方面からの交通アクセスが飛躍的に向上したことによる、観光商工産業の振興に期待を寄せており、IC の整備効果を最大限に活用した"まちづくり"を図っています。

#### 2. 記録的豪雨

一昨年の9月15日から16日にかけて近畿地方に接近し、京都府・滋賀県・福井県に全国で初めて大雨特別警報を発令させた台風18号は、嶺南地域を中心に激しい雨を降らせ、本町に大きな被害をもたらしました。

台風が接近した15日は未明から雨となり、小浜、 大飯では15日の日降水量が9月の極値第1位を更 新し、16日未明から明け方にかけては、嶺南を中 心に激しい雨が降り、16日には再び日降水量が9



月の極値第1位を更新しました。

その日は、日中に降雨はほとんどありませんでしたが、16日の未明から明け方にかけて時間30mmを超える降雨を連続して観測し、本町においての日降水量は、15日98mm、16日210mm、合計308mmとなり、平成11年に発生した豪雨災害以来の記録的な豪雨となりました。時間30mmを超える降雨が観測された夕方から、災害対策を担当する部署においては直ちに招集を行い、町内における情報収集や巡視活動を行いました。

明け方になると台風の影響により降水量が300 mmを超え、16日の午前5時05分には平成25年8月30日から運用開始となった大雨特別警報が発令され、災害対策本部を設置しました。町内のいたるところから豪雨による被害の状況や河川の増水の情報が寄せられ、人的な被害なども心配される状況になりました。

16日の明け方になると巡視をしていた地元消防団や自治会、町職員などから、土砂崩れによる道路の通行止めや河川の増水、氾濫、土石流による被害報告が次々に入りました。

道路では山間部の集落へ向かう県道において法 面が崩壊し、集落が一時孤立状態となりました。 巡視に向かっていた職員の目の前で道路上に土砂 が流出するなど、人命の危険が隣り合わせという 状況でありました。

また,河川においては増水により護岸が損壊し, 住宅のすぐそばまでせまりました。護岸も決壊寸 前のところまできており,洪水等による甚大な被 害につながるところでした。

#### 3. 被災状況

町内での復旧事業としましては、福井県による 災害復旧工事が約40箇所、本町による災害復旧工 事が大小合わせて約300箇所となっております。 また、被害のあった箇所については災害関連緊急 砂防事業や治山事業による渓流河川等の堰堤を新 設する事業が実施されていますが、土石流の発生 により満砂状態となった既存の施設および土砂の 堆積により閉塞状態となった河川については、出 水期に向けての対応が必要であることから、早急 に堆積した土砂の除去を行いました。

今回の災害により、町内を南北に結ぶ県道松屋河原市線が河川の増水により崩壊し、全面通行止めとなり、生活への影響が懸念される状況となりました。また、美浜町の北部に位置する丹生地区では、16日の午前5時頃、土石流が発生したことにより家屋が倒壊し、1名の行方不明者が発生し、消防や自衛隊による行方不明者捜索活動の努力も



被災状況 (県道松屋河原市線)



被災状況(二級河川耳川)



被災状況 (丹生地区)

及ばず、1名の尊い命が犠牲となってしまいました。

台風18号による豪雨は町内のいたるところで被害をもたらし、主要道路が通行止めになるなど、各地で台風による被害の爪痕を残すこととなりました。

こうした町内における観光地周辺の被害により、 被災後の道路通行規制による観光地への集客がま まならないなど、秋、冬の観光シーズンに向けて、 観光地は大きな痛手を受けることとなりました。

#### 4. 災害を振り返って

近年のゲリラ的豪雨は地球温暖化が影響しているのか、予想をはるかに上回る規模で発生し、全国各地に膨大な被害を及ぼしています。本町においても豪雨による災害が短いスパンで発生しており、突発的に発生し被害をもたらす豪雨や台風等の災害に対する対応が急がれています。

また、今回の災害に際し陣頭指揮を務め、その 場の的確な判断と迅速な指示が重要であり、町民 に対して適切な避難勧告等の防災情報を発信する とともに、災害発生時における的確かつリアルタイムな防災情報の伝達を行っていくことが大切であることを再認識しました。そのためには豊富な経験と対応能力を持つ専門家や関係諸機関が市町の災害対策本部、または災害現場に入り、情報を共有していくことが重要であると考えます。

台風18号による災害により、本町において1名の死者が出てしまいましたが、被害を最小限に食い止めることができたのも、町内各地の自治体関係者や消防関係者などの地域の方々の協力があってこそだと感じています。

しかし、地域の方々の協力だけでは限界があることから、安全で安心なまちづくりを進めていくには基盤の整備が必要であり、災害時における物資等の輸送に際し、道路ネットワークの確立が不可欠であります。

最後に、近年の災害に対する強いまちづくりを 進めていくため、土砂災害対策、治水対策ととも に、災害に強い道路整備を推進していきますので、 今後とも国、県をはじめ関係機関のご指導をよろ しくお願い申し上げます。